

グローバルに認められる市場に貢献するIR

佐藤 淑子 CMA

目 次

- | | |
|---|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 東証の要請と上場企業の対応 3. 課題を踏まえた取り組み①—IRに積極的な企業— | <ol style="list-style-type: none"> 4. 課題を踏まえた取り組み②—要請を機にIRを本格化させた企業— 5. 期待される投資家の「協働」 6. おわりに |
|---|--|

東京証券取引所による「資本コストや株価を意識した経営の実現」の要請は、企業のIR活動を活発化させている。一方、情報開示の体制が十分とはいえず、リソース不足を課題にあげる企業も少なくない。投資家が企業価値の源泉を評価し、「協働」する姿勢も期待される。本稿では、日本IR協議会会員企業を対象にした調査結果や「IR優良企業賞」応募企業の取り組みなどを基に、グローバルに認められる市場に寄与するIRを考える。

1. はじめに

東京証券取引所（以下、東証）による「資本コストや株価を意識した経営の実現」の要請は、上場企業のIR活動を活発化させている。経営トップが従来以上に資本収益性向上やPBR改善を明言したり、実現に向けた道筋を具体的に示したりする企業が増えている。一方、情報開示の体制が十分とはいえず、リソース不足を課題にあげる企業も少なくない。企業価値の源泉を投資家が評価し、向上のために「協働」する姿勢も期待される。

本稿では、日本IR協議会会員企業を対象にしたアンケート調査結果や「IR優良企業賞」応募企業の取り組みなどを基に、グローバルに認められる市場に貢献するIRを考えてみたい。

なお、意見に該当する部分は個人的なものであり、所属団体を代表するものでないことを申し添えておく。

2. 東証の要請と上場企業の対応

2023年3月に東証が「資本コストや株価を意



佐藤 淑子（さとう よしこ）

日本IR協議会専務理事。1985年慶應義塾大学経済学部卒業。同年日本経済新聞社に入社。1993年に日本IR協議会に出向。2015年から専務理事。同協議会の運営に加えて執筆、講演活動が続ける。主な著書に、『IRの成功戦略』（日本経済新聞出版社、2015年）、『企業・投資家・証券アナリスト 価値向上のための対話』（日本経済新聞出版社、2017年、共著）、『サステナブル経営と資本市場』（日本経済新聞出版社、2019年、共著）など。日本証券アナリスト協会副会長、同協会運営委員会委員長。